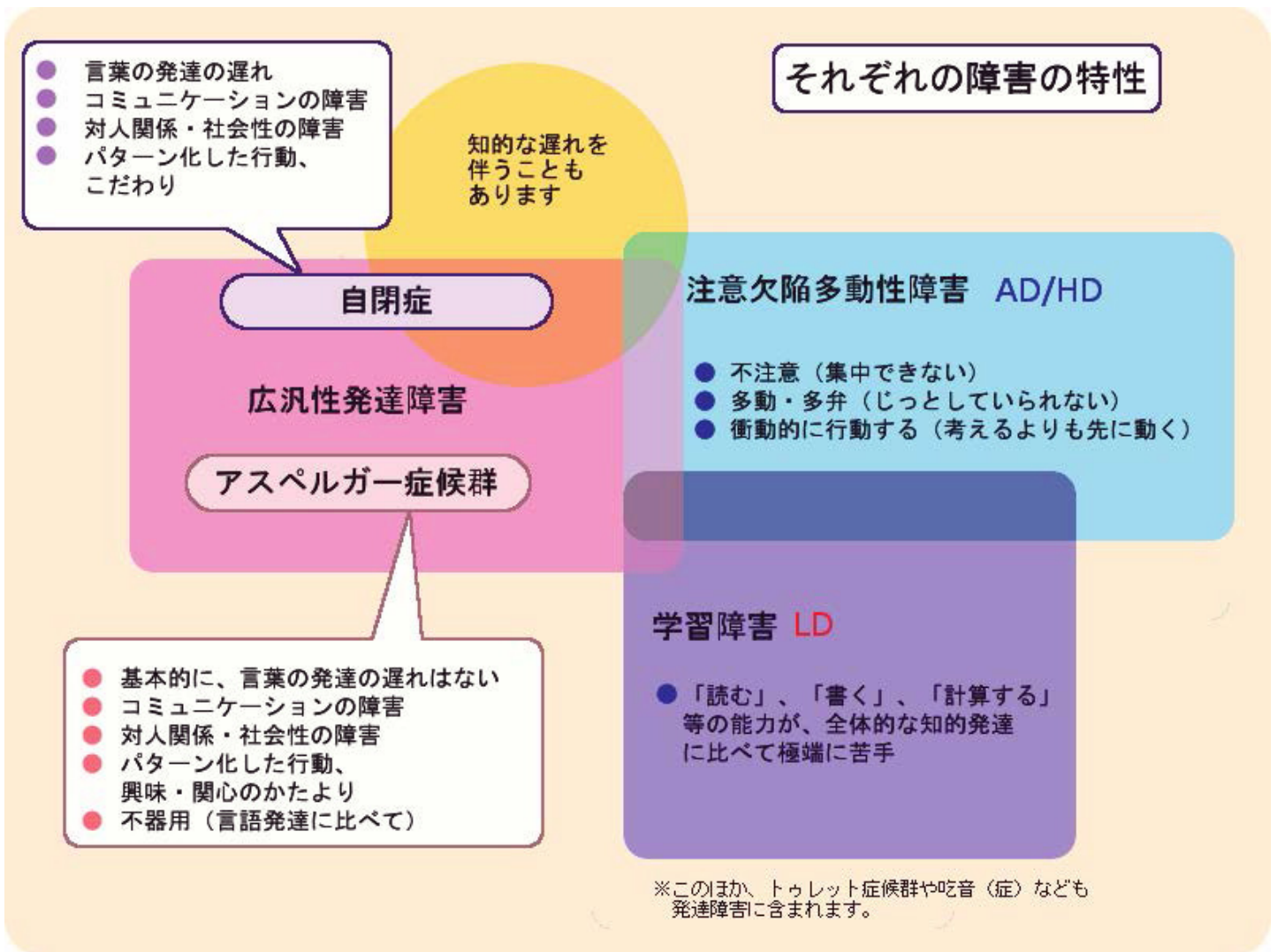


それぞれ違う 発達^{でこ}の凸凹^{ぼこ}

「発達障がい」という言葉がメディアでも話題に上がり注目される機会も増えましたが、実際にそれがどのようなものかということは、まだまだ理解されていないこともあり、当事者の生活や就労を困難にしているという現状があります。虐待、いじめなど、心の傷が加わることで、二次障がいとしてうつ病など精神面へ影響を及ぼす場合もあります。そのようなケースを避けるためにも、特性を知り、それぞれに合う適切な支援・教育をおこなうなど、周囲の正しい理解やサポートが重要です。

発達障がいを知る

発達障がい者支援法において「発達障がい」は『自閉症、アスペルガー症候群（AS）、その他の広汎性発達障がい（PDD）、学習障がい（LD）、注意欠陥多動性障がい（AD/HD）その他これに類する脳機能障がいであってその症状が通常低年齢において発現するもの』と定義されています。



これらのグループのように障がいの種類を明確に分けて診断することは大変難しいとされています。障がいごとの特徴がそれぞれ少しずつ重なり合っている場合も多いからです。また、年齢や環境により目立つ症状がちがってくるので、診断された時期により、診断名が異なることもあります。大事なことは、その人がどんなことができ、何が苦手なのか、どんな魅力があるのかといった「その人」に目を向けることです。

（発達障害情報・支援センター ホームページより）

ピカリンは三重県内の発達障がいの子をもつ親御さんたちが立ち上げた会で、NPO 法人アスペ・エルデの会の正会員団体です。NPO 法人アスペ・エルデの会は、東海4県を対象に発達障がい者を支援する活動を行っています。ピカリンが実施している子どもたちの学習会では、アスペ・エルデの会から発達障がいの専門家（ディレクター）・ボランティアスタッフ等が派遣され、アスペ・エルデの会が開発している子どもたちの療育や支援のプログラムを受けることができます。また、保護者の方も相談等の支援を受けることができます。今回は、子どもたちの学習会に参加させてもらい、アスペ・エルデの会ディレクター新谷 麻衣さんとボランティアスタッフさんにお話を伺いました。



10年前だと発達障がいは、しつけや心の病気だと言われていました。今もそういったことをいわれることもありますが、昨今の啓発効果もあってか、しつけの問題ではないということが、だいぶ広がってきていると思います。ですがインターネットなど一部の情報網ではセンセーショナルな事件や出来事の方が大きく報道されることもあり、そうしたことから「発達障がい」ということばが独り歩きしてしまい、偏ったイメージや色眼鏡でみられることを当事者の親御さんたちは心配しています。私たちは、活動の中では「発達障がい」ではなく「発達凸凹」と呼んでいます。自閉症スペクトラムの特徴を理解してもらいたいことですが、理解してもらった上で、凹もあれば凸もあるということを知ってほしいです。発達凸凹がある子たちのことを一部の情報で知り得た

事だけで決めつけず、ひとりひとり、何が苦手で何が得意なのか、実際にふれあってみて欲しいと思います。その上で、なにか自分と違うと思った時それを「異質」ではなく「ひとつの人のあり方」と考えてもらえるといいなと思います。

ピカリンでは、実際に子どもたちとふれ合い、学習支援などを行うボランティアスタッフを募集しています。具体的には、約2年間、毎月2回主に津市内での子どもたちとの実践的な関わりや専門家セミナーを通じて、発達障がいについて学ぶ事の出来るボランティアスクールに参加して下さる方を募集しています。ボランティアをすることで、発達障がいをより理解し、専門的な知識と経験を得る事が出来ます。教育、保育、福祉、医療職を目指す学生さんが多数参加されています。

●ボランティアに関する問合せ先

ホームページ <http://www.as-japan.jp/j/file/volunteer/index.html>

メールアドレス borasuta55@as-japan.jp

「和がや」は発達障がいと思われる方を支える家族を対象に支援を行っています。月1回の家族会では、当事者本人の特性を理解するための勉強会や、家族はどう関わっていくべきなのか語り合う時間を設けたり、元気に楽しく生活していくため参加者同士が楽しみを共有できる企画等を実施したりしています。現在の活動に至るまでのお話を「和がや」の代表福地 幸（みゆき）さんに伺いました。



私は、結婚するまで「発達障がい」の特性について知る機会はありませんでした。結婚後、十数年間、家族の中でさまざまな問題が起こっていましたが、なぜその問題が起こるのだろう？と思っても発達障がいに結びつくことはありませんでした。4年前に主人がお金がらみの依存症問題を起こし、それをきっかけに主人はなぜ依存症になったのかの原因を知りたく、依存症に纏わる家族会やこころの医療センター等を利用しました。県内外さまざまな機関で相談する中で行きついた原因は、主人が起こす問題の根底には発達障がいがあり、二次障がい依存症症状がでてきているということでした。そのとき初めて発達障がいについて知り、主人の特性を知る、受け入れることを始めました。受け入れることで今まで主人を責めていた気持ちが楽になり、これからどうしていこうかと

考えられるようになりました。そして、発達障がいのケアには、まず家族が当事者本人の特性を知り安心した生活が送れるようサポートすること、家族も自分の人生を楽しむことが大切だと思い、発達障がいを持つ家族の支援活動をはじめました。今後は、福地家で起こった問題や、その問題をどうやって解決してきたかなど、主人と一緒に講演活動を行い、発達障がいについて知ってもらう機会をつくっていききたいです。

◆発達障害の家族をもつ家族会 和がや 定例勉強会

場 所：ゆめぼりすセンター内

日 時：毎月第3土曜日 13:00~15:00

参加費：500円

※月によって変更する場合があります。

連絡先： 福地 幸（みゆき）（和がや代表） 090-4162-0266

ご家族のどなたかが、「気持ちが通じない」「他の人と何かが違う」「対人関係が苦手」「集団行動・人ごみが苦手」「抽象表現の理解が苦手」「柔軟な対応・臨機応変が出来ない」「場の空気が読めない」「自分流のルールにこだわる」「音・臭い・味・感触に過敏」「特定の物事にこだわる」「自分の思い通りにいかないとパニックを起こす」「話しかけても反応しない時がある」「1番にこだわる」「身体接触を嫌がる」・・・などの状態でお悩みの方を対象にした家族会です。発達障がいと診断されている方もされていない方も、ご参加いただけます。